

平成 28 年度 第 3 回大学院経営セミナー 講演要旨

講師：東洋学園大学 学長 原田 規梭子

演題：「女性がキャリアを積むということ」

日時：平成 28 年 12 月 11 日（日曜日）

会場：東洋学園大学 本郷キャンパス 1404 教室

講師の原田氏は、キャリア・パス、子育てと仕事の両立、学びに焦点を当て講演を行った。要旨は次の通りである。

キャリア・パス

原田氏は明治大学大学院文学研究科修士課程を修了後、東洋女子短期大学に専任講師として就任した。主に英米の演劇を専門とし、現在は東洋学園大学学長を務める。

氏は明治大学入学後 ESS に入部する。2 年次に 5 大学英語演劇コンテストの主役に抜擢され、そこで表現や演劇の楽しさを知る。在学中に文学部のシェイクスピア専門の橘先生の講義を受けたことが、演劇の研究家となる契機となる。

大学卒業後、橘氏の勧めで同大大学院へと進学する。修了後、東洋女子短期大学英文科の教員として学生に授業を行う中で教職が天職であることに気がつく。

育児と仕事の両立

氏は出産後もワーキングマザーとして教育と研究を続けていたが、子どもが未熟児として生まれ、体調が不安定であったことから退職を申し出た。しかし、当時の馬渡房学長は、氏が一番好きな科目をひとつだけ続けることを提案した。その結果、氏は非常勤講師として演劇論の講義を週に 1 回だけ続けることができた。

当時は、将来も研究を続けたいという強い意思を持ち、子育ての合間を使い時には涙を流しながらも地道に研究を続けた。

学び続けるということ

本学の学びの原点は「自彊不足（じきょうやまず）」である。これは建学の精神であり、日々休まず勉学を続けることを意味する。本学創設者の宇田尚（ひさし）は、女性の資質を高く評価しており、女性の職業的自立のために女子歯科医学専門学校を創設した。易学にも精通し、教員と学生を陰と陽で表した場合、学生は知識や経験という栄養を吸い大きく成長する木であるとした。対して教員は学生という木を様々な形で支える陰であると述べた。

「六十にして六十と化す」とあるように、人は60歳になっても勉強によって変化することができる。そのために日々、瞬間瞬間が学びの連続であり、それを選択する力が何より重要であると述べた。